

次世代の夢、「スイコーランド」 実現のため

公園遊具の新商品開発に注力

スイコー 株式会社

プラスチックの回転成形という得意技術に磨きをかけ続ける、スイコー株式会社。他の成形方法では生み出せない形や大きさ、特徴を武器に、液体運搬・貯蔵用タンク、高速道路でよくみかける緩衝材などに加え、公園などの大型遊具も製造し、事業範囲を拡大しています。今日に至る道のりと、今後の目標、次世代の夢について、次期経営者として期待されている取締役製造本部長の横山俊介氏にお伺いしました。



スイコー 株式会社

代表取締役社長：横山 隆人 氏

本社：兵庫県尼崎市

設立：1963年（昭和38年）

従業員数：130名

事業内容：回転成形法によるポリエチレン製品の製造・販売

一回転成形のパイオニアとして

当社は1963年（昭和38年）、プール浄化装置や噴水の販売会社として、大阪市北区の茶屋町に設立されました。有名なところでは、広島市の平和記念公園の噴水などを手掛けさせていただきました。その後、1967年に海外の技術を取り入れて、尼崎市で回転成形によるポリエチレン製品の製造を開始したのが、今日の礎となっています。農作物・水産物の洗浄などに用いる角型容器や、耐衝撃性・耐久性に優れた液体運搬用タンクなどは、姿かたちを変えながら、創業当時から現在まで当社を支えています。



液体運搬用タンク

その後、滋賀県にも工場を設立し、大型回転成形機を導入。1971年には、当時国内最大級の一体成形タンク（2万ℓ）を開発しました。また、これまでの常識を覆す、容器内に液体が全く残

らないタンクを開発するなど、お客様の声を次々と反映し、より高付加価値の製品を生み出してきました。

売上のボリュームが大きい大型タンクシリーズは、さまざまな工場で使用いただいています。ポリエチレン製で耐薬品性に優れているため、塩酸や硫酸の貯蔵も可能です。また、-30℃の環境でも使用可能な耐寒性も備えています。一方で熱に弱い特性から、これまでは常時保管温度で60℃を上限としていたのですが、内層にポリプロピレンを用いる世界初の製法を確立したことで、常時80℃まで保管が可能になりました。顧客満足達成のため、今後も技術革新・提案営業を行っていきます。



大型のMCタンクシリーズ

「容器メーカー」からの脱却

2000年に現社名に変更した頃から、「脱容器」を掲げ、デザイン製品などさまざまな分野へ挑戦を始めました。

先述の耐熱タンク開発など技術革



■回転成形の強みを活かす

高速道路などでよく見かける緩衝材。ブロー成形品に対し、同社の製品は回転成形ならではの肉厚さが利点。万一の衝突時の被害軽減につながります。

■大型タンクシリーズ

売上の半分を占める大型タンクシリーズ。さまざまな工場で、水処理や薬品の貯留に数多く採用されています。同社では、最大で容量5万ℓ、高さ約7mの大型タンクを製造しています。



■子供たちの未来を育む遊具

公園や大型ショッピングセンターなどで使われる樹脂製のすべり台などを国内製造。ウォールクライミングの要素を取り入れた遊具「ロトウォール」など、新規開発も日々進められています。

新への取り組みもさることながら、お客様ニーズの吸いあげも重要視しており、変わったものでは光を透過するプランターカバーや、高さ2mを超えるジャンボコーンなども開発してきました。

近年最も注力しているのが、公園などの大型遊具です。これまでは、ポリエチレン製の遊具はアメリカや中国からの輸入が大半でした。国内生産という品質の安心感に加え、小ロット・短納期に対応できる点が、輸入品に対しての当社の強みとなっています。



カラフルな色どりのすべり台

地域に密着した需要の取り込みと、良いものを早く・安く届けるという目的のため、当社は全国の営業所に加え、北海道、岩手、滋賀、兵庫、熊本に工場を構えています。売上35億円規模の企業で全国に工場があるのは珍しいと思います。

また近年は地球環境にも配慮し、製品を交換設置する際に、古いものをそのまま廃棄するのではなく、樹脂の

リサイクルにも取り組んでいます。

— 良いアイデアは、「やってみる」

当社では社員に新製品の提案を積極的に出してもらっています。お客様からの「こんなもの作れませんか?」という声も重要ですが、従業員からの発案で生まれた商品も多数あります。良いアイデアが出れば、どんどんやってみようという雰囲気が満ちていると思います。他の樹脂成形と比較して、回転成形では非常に低コストで金型が製作できるため、製品開発にトライしやすい環境でもあります。

— 震災経験と、社会との関わり

全国に工場があることで、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本、北海道の震災も経験しました。当社の製品は飲料水やトイレの水の運搬用として被災地でも使われるため、震災経験の結果として身についた対応の速さは、社会の役に立っているのではないかと思います。実際、東日本大震災の発生直後は、営業社員全員が営業活動を止め、製造をサポート。いち早く被災地へ製品を届けることに専念し、生活支援と復興に貢献できました。

今後は、展示会へも積極的に出展し当社の製品を知っていただくことで、スイコーというブランドを高めていきたいと思っています。

あわせて、新製品開発をこれまで以上に加速していき、生活・社会に近い新規分野への参入、たとえば一家に一台あるような製品を手掛けることができたいと思っています。それに加え、透明性や難燃性に優れた機能性樹脂など、新素材の研究にも引き続き注力していきます。

— 夢は「スイコーランド」の実現

既存分野で今後最も伸ばしていきたいのが、遊具です。現在の売上を、5年後には3倍にしたいと考えています。

2020年のオリンピック競技にもなっているクライミングを子供でも気軽に楽しめる「ロトウォール」が人気を博すなど、追い風が吹いている状況です。屋外に設置する既存製品に加え、幼稚園などをターゲットとした室内設置用遊具の製品ラインナップを増やすべく、開発に取り組んでいます。

将来は、当社製品でつくられた公園、言うなれば「スイコーランド」を、実現させたいと思っています。これは、私だけでなく、当社の次世代の夢でもあります。社会貢献の一環として、スイコーというブランドを高める手段にもなりますので、面白いチャレンジの方向ではないかと思っています。

— 貴重なお話をいただき

誠にありがとうございました